

令和6年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事要旨

日 時：令和7年2月13日（木）13：15～14：10

方 法：Z o o m

出席者：別紙のとおり

議 題：

1. SPODネットワークコア運営協議会の構成員等について 【資料1-1～2】

中井議長から資料1-1～2に基づき、新規構成員を反映した構成員名簿について説明があった。

2. 研修プログラム受講状況について 【資料2-1～2】

事務局から資料2-1～2に基づき、SPOD公開プログラムの1月末時点の受講状況について説明があった。また、中井議長から2月以降に実施したプログラムについては受講状況がまとめ次第、事務局まで報告いただきたい旨、依頼があった。

3. 令和6年度SPOD内講師派遣事業についてのアンケート集計結果について 【資料3】

事務局から資料3に基づき、SPOD内講師派遣事業に対する担当者アンケートの集計結果について説明があった。自由記述の意見を参考に、高等教育に関する政策的内容や分野別FD・SDに関する内容についても今後のプログラム策定にあたって検討していくこととなった。

4. 第20回大学教育カンファレンス in 徳島の実施報告について 【資料4】

徳島大学から資料4に基づき、第20回大学教育カンファレンス in 徳島の実施状況、アンケートの集計結果について報告があった。また、運営の役割分担について意見があった。

5. 令和6年度SPOD事業総括について 【資料5】

事務局から資料5に基づき、令和6年度SPOD事業総括に関するスライドの内容について説明があった。また、事業評価委員会、会計監査、総会の資料となるため、修正・追記事項がある場合は事務局まで連絡をお願いしたいこと、軽微な変更については事務局に一任いただきたい旨、併せて説明があり、了承された。

6. 令和6年度SPOD事業収支報告書について 【資料6】

事務局から資料6に基づき、令和6年度SPOD事業収支報告書の内容について説明があった。また、会計監査、総会の資料となるため、支出額が確定してからの修正については事務局に一任いただきたい旨、併せて説明があり、了承された。

7. 令和5年度SPOD事業評価委員会委員の評価への対応について 【資料7】

事務局から資料7に基づき、事業評価委員からの事業予算への指摘事項に関して、前回の案から記載を修正したことについて説明があった。

8. 令和7年度SPOD事業計画について 【資料8】

中井議長から資料8に基づき、令和7年度のSD事業の日程が確定したことについて説明があった。また、総会に諮る予定であることについて併せて説明があった。

9. 令和7年度共同事業契約における役割分担及び事業予算案について 【資料9-1～2】

事務局から資料9-1～2に基づき、令和7年度の加盟校の役割分担、事業予算案、年会費の内訳案について説明があり、原案のとおり総会に諮ることについて了承された。

10. SPODフォーラム2025について 【資料10-1～2】

徳島大学から資料10-1～2に基づき、SPODフォーラム2025のプログラム案、参加者企画枠の選出理由について説明があった。また、割り当ての教室について変更の必要がないか事務局から各コア校、講師に確認することとなった。

11. 令和7～8年度のSPOD役員及び事業評価委員について 【資料11-1～2】

事務局から資料11-1に基づき、次期役員名簿について説明があり、原案のとおり総会に諮ることについて了承された。また、資料11-2に基づき、次期事業評価委員名簿について説明があり、原案のとおり了承された。

12. SPOD事業予算の繰越について 【資料12】

事務局から資料12に基づき、SPOD事業予算の繰越案について、加盟校に意見照会を行い2校から意見提出があったことについて説明があった。資料を修正し、意見のあった加盟校に再度確認を取った上で、総会に諮ることとなった。

13. SPOD-SDCの認定について 【資料13】

久保SD専門部会長から資料に基づき、SPOD-SDCの申請がありSD専門部会で申請基準を満たしていることを確認したことについて説明があり、原案のとおり了承された。

令和6年度 第7回SPODネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当	FD専門部会委員	SD専門部会委員
徳島大学	高等教育研究センター教育改革推進部門 准教授	吉田 博	FD	◎	
	高等教育研究センター教育改革推進部門 助教	飯尾 健	FD	○	
	法人運営部人事課 副課長	大森 理佐	SD		○
	学務部教育支援課 課長, (兼)教育企画室長	岩森 清澄	事務		
	学務部教育支援課 副課長	白田 智子	事務		
	学務部教育支援課 係長	瀬尾 亜希子	事務		
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	蝶 慎一	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	西本 佳代	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 特命講師	小坂 有資	FD	○	
	教育・学生支援部修学支援課 係長	宮崎 真美	FD		
	教育・学生支援部修学支援課 課員	野崎 真湖	FD		
	企画総務部給与福利課 課員	奥野 鈴花	SD		○
	教育・学生支援部教育企画課 係長	島 明日香	事務		
	教育・学生支援部教育企画課 課員	山田 夏未	事務		
高知大学	学び創造センター 准教授	杉田 郁代	FD	○	
	学び創造センター 特任講師	寺田 悠希	FD	○	
	総務部 人事課長	三橋 敏朗	SD		○
	総務部人事課労務管理係 係長	岡田 美波	SD		○
	総務部人事課労務管理係 主任	橋田 由貴	SD		
	学務部学務課総務係 係員	桂 真由	事務		
	高知大学学務課総務係 事務補佐員	廣末 和香子	事務		
愛媛大学	教育・学生支援機構 教授	中井 俊樹	議長・FD	○	
	教育・学生支援機構 准教授	清水 栄子	SD		○
	教育・学生支援機構 講師	村田 晋也	FD	○	
	教育・学生支援機構 講師	上月翔太	FD	○	
	教育・学生支援機構 特任助教	真鍋 亮	FD	○	
	教育・学生支援機構 特任助教	葛西 崇文	SD		○
	総務部 次長	久保 秀二	SD		◎
	総務部人事課 副課長	吉良 典真	SD		
	総務部人事課人事・人材育成チーム チームリーダー	清家 郷詩	SD		
	教育学生支援部教育企画課 副課長	林 知寿	SD・事務		○
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム チームリーダー	河内 貴博	FD・事務	○	
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	向井 晴香	事務		
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	二宮 和真	事務		

※◎は専門部会長

令和6年度 ネットワークコア運営協議会構成員名簿

令和7年1月6日時点

大学名	所 属	氏 名	担当	FD専門部会委員	SD専門部会委員
徳島大学	高等教育研究センター教育改革推進部門 准教授	吉田 博	FD	◎	
	高等教育研究センター教育改革推進部門 助教	飯尾 健	FD	○	
	高等教育研究センター教育の質保証支援室 助教	塩川 奈々美	FD	○	
	法人運営部 課長	林 三知夫	SD		○
	法人運営部 人事課長	大川 直昭	SD		○
	法人運営部人事課 副課長	大森 理佐	SD		○
	学務部教育支援課 課長, (兼)教育企画室長	岩森 清澄	事務		
	学務部教育支援課 副課長	白田 智子	事務		
	学務部教育支援課 教育企画係長	瀬尾 亜希子	事務		
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部長 教授	松本 洋明	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 教授	佐藤 慶太	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	蝶 慎一	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	西本 佳代	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 特命講師	小坂 有資	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部 特命講師	藤澤 修平	FD		
	教育・学生支援部修学支援課 係長	宮崎 真美	FD		
	教育・学生支援部修学支援課 課員	野崎 真湖	FD		
	教育・学生支援部修学支援課 課員	木村 珠雪	FD		
	企画総務部 次長(併:企画総務部給与福利課長)	入屋 充	SD		○
	企画総務部給与福利課 課員	奥野 鈴花	SD		○
	企画総務部給与福利課 課員	池尾 万佑子	SD		○
	教育・学生支援部教育企画課 係長	島 明日香	事務		
教育・学生支援部教育企画課 課員	山田 夏未	事務			
高知大学	学び創造センター 准教授	杉田 郁代	FD	○	
	学び創造センター 准教授	高畑 貴志	FD	○	
	学び創造センター(兼務) 准教授	俣野 秀典	FD	○	
	学び創造センター 特任講師	寺田 悠希	FD	○	
	総務部 人事課長	三橋 敏朗	SD		○
	総務部人事課労務管理係 係長	岡田 美波	SD		○
	総務部人事課労務管理係 主任	橋田 由貴	SD		
	学務部学務課 課長補佐	吉岡 瞳	事務		
	学務部学務課総務係 係員	桂 真由	事務		
高知大学学務課総務係 事務補佐員	廣末 和香子	事務			
愛媛大学	教育・学生支援機構 教授	中井 俊樹	議長・FD	○	
	教育・学生支援機構 准教授	清水 栄子	SD		○
	教育・学生支援機構 准教授	仲道 雅輝	FD	○	
	教育・学生支援機構 講師	村田 晋也	FD	○	
	教育・学生支援機構 講師	上月翔太	FD	○	
	教育・学生支援機構 特任助教	真鍋 亮	FD	○	
	教育・学生支援機構 特任助教	葛西 崇文	SD		○
	総務部 次長, (事務取扱)人事課長	久保 秀二	SD		◎
	総務部人事課 副課長	吉良 典真	SD		
	総務部人事課人事・人材育成チーム チームリーダー	清家 郷詩	SD		
	教育学生支援部長	桐野 律子	事務		
	教育学生支援部 教育企画課長	桐野 律子(兼務)	事務		
	教育学生支援部教育企画課 副課長	林 知寿	SD・事務		○
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム チームリーダー	河内 貴博	FD・事務	○	
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	向井 晴香	事務		
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	二宮 和真	事務			

※◎は専門部会長

ネットワークコア運営協議会の構成員に関する申合せ(抄)
(組織)第2 協議会は、次の(1)～(4)に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 議長
- (2) 各コア校のFD担当者
- (3) 各コア校のSD担当者
- (4) 各コア校の事務担当者

ネットワークコア運営協議会SD専門部会名簿 (令和7年1月6日現在)

大学名	所 属	氏 名	備 考
徳島大学	法人運営部 課長	林 三知夫	第3条第1号委員
	法人運営部 人事課長	大川 直昭	第3条第1号委員
	法人運営部人事課 副課長	大森 理佐	第3条第1号委員
香川大学	企画総務部次長(併:企画総務部給与福利課長)	入屋 充	第3条第1号委員
	企画総務部給与福利課 課員	奥野 鈴花	第3条第1号委員
	企画総務部給与福利課 課員	池尾 万佑子	第3条第1号委員
高知大学	総務部 人事課長	三橋 敏朗	第3条第1号委員
	総務部人事課労務管理係 係長	岡田 美波	第3条第1号委員
愛媛大学	総務部 次長	久保 秀二	第3条第1号委員
	愛媛大学教育・学生支援機構 准教授	清水 栄子	第3条第1号委員
	教育・学生支援機構 特任助教	葛西 崇文	第3条第1号委員
	教育学生支援部教育企画課 副課長	林 知寿	第3条第2号委員

※オブザーバー除く

令和6年度SPOD FD、FD・SD共通、プレFDプログラム一覧

令和7年1月31日現在

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
4月11日(木)	合理的配慮の必要な学生に向けた授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	79	79	70	9	0	0	14	94.3
4月18日(木)	合理的配慮の必要な学生に向けた授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	64	64	58	6	0	0	14	100.0
4月18日(木)	チームビルディング	愛媛大学	8	0	8	7	0	1	1	0	100.0
5月9日(木)	オンラインツールを活用した双方向型授業 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	80	80	73	7	0	0	17	97.9
5月16日(木)	オンラインツールを活用した双方向型授業 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	67	67	60	7	0	0	14	100.0
5月15日(水)～17日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(新任職員)	高知大学	123	0	123	0	123	0	16	0	98.3
5月22日(水)～24日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	7	0	7	0	7	0	6	0	-
6月1日(土)・2日(日)	授業デザインワークショップ	愛媛大学	23	0	23	23	0	0	3	0	100.0
6月13日(木)	収集された学生データの活用方法—教学IRに向けて— 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	82	82	70	12	0	0	16	92.1
6月20日(木)	収集された学生データの活用方法—教学IRに向けて— 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	66	66	53	13	0	0	13	96.8
6月20日(木)・21日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	愛媛大学	29	0	29	0	29	0	10	0	96.2
7月1日(月)～31日(水)	プロジェクトマネジメント	愛媛大学	0	36	36	32	3	1	0	6	83.9
7月2日(火)	大人数講義法の基本	愛媛大学	0	25	25	24	0	1	0	4	95.0
7月11日(木)・12日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	香川大学	7	0	7	0	7	0	3	0	-
7月11日(木)	授業とAIの幸福な関係を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	70	70	62	8	0	0	15	100.0
7月18日(木)	授業とAIの幸福な関係を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	55	55	47	8	0	0	13	100.0
7月16日(火)	学習評価の基本	愛媛大学	13	0	13	12	0	1	2	0	100.0
7月18日(木)	アクティブラーニング入門セミナー	愛媛大学	15	0	15	14	0	1	2	0	100.0
8月1日(木)	大学の危機管理—ハラスメント対応	愛媛大学	20	0	20	14	6	0	2	0	100.0
8月22日(木)・23日(金)	授業設計ワークショップ	徳島大学	21	0	21	21	0	0	4	0	100.0
8月28日(水)～30日(金)	SPODフォーラム2024(台風10号のため中止)	香川大学									
9月4日(水)	対面授業でも活用できるオンラインツールを体験しよう	高知大学	15	0	15	14	1	0	6	0	100.0
9月4日(水)～6日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(定員不充足のため中止)	徳島大学									
9月4日(水)	ティーチング・ポートフォリオチャート作成ワークショップ	徳島大学	3	0	3	3	0	0	1	0	66.7
9月4日(水)	高等教育政策論	愛媛大学	19	0	19	13	6	0	2	0	100.0
9月4日(水)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン—考え方と進め方—	高知大学	7	0	7	7	0	0	3	0	85.7
9月5日(木)	eラーニング活用(入門編)—学習支援システムMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう—	愛媛大学	6	0	6	4	2	0	3	0	100.0
9月5日(木)・6日(金)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	19	0	19	19	0	0	1	0	92.3
9月10日(火)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 —課題分析図の活用—	愛媛大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
9月10日(火)	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	愛媛大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
9月12日(木)	授業実践の成果を発表しよう 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	48	48	43	5	0	0	10	95.2
9月19日(木)	授業実践の成果を発表しよう 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	51	51	45	6	0	0	12	100.0
9月12日(木)・13日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成・更新ワークショップ	愛媛大学	20	0	20	20	0	0	2	0	93.8

令和6年度SPOD FD、FD・SD共通、プレFDプログラム一覧

令和7年1月31日現在

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
9月12日(木)・13日(金)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ(定員不充足のため中止)	愛媛大学									
9月17日(火)	動画教材作成法	愛媛大学	11	0	11	11	0	0	3	0	100.0
10月3日(木)・4日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	愛媛大学	28	0	28	0	28	0	11	0	100.0
10月10日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	65	65	61	4	0	0	13	100.0
10月17日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	63	63	58	5	0	0	10	100.0
10月17日(木)・18日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	高知大学	7	0	7	0	7	0	6	0	-
10月31日(木)・11月1日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)	愛媛大学	30	0	30	0	30	0	10	0	100.0
11月14日(木)	複数の方法を組み合わせた多面的な学習評価の提案 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	66	66	61	5	0	0	15	100.0
11月21日(木)	複数の方法を組み合わせた多面的な学習評価の提案 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	57	57	51	6	0	0	15	100.0
11月21日(木)・22日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	徳島大学	7	0	7	0	7	0	6	0	-
11月21日(木)・22日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	徳島大学	27	0	27	0	27	0	10	0	93.8
12月6日(金)～1月31日(金)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	0	21	21	21	0	0	0	6	-
12月12日(木)	学生支援の動向と体制づくりー障害学生支援に焦点を当ててー 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	54	54	44	10	0	0	14	100.0
12月19日(木)	学生支援の動向と体制づくりー障害学生支援に焦点を当ててー 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	57	57	46	11	57	0	15	94.4
12月25日(水)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	3	0	3	3	0	0	2	0	100.0
12月25日(水)	学生参加型授業の技法	香川大学	3	0	3	3	0	0	2	0	100.0
12月25日(水)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0
12月26日(木)	第20回大学教育カンファレンスin徳島	徳島大学	117	44	161	85	49	27	16	28	95.2
12月26日(木)	シラバス・授業を改善しよう！	香川大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
1月9日(木)	学生の学習を促す試験問題・レポート課題の作り方 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	74	74	67	7	0	0	17	100.0
1月16日(木)	学生の学習を促す試験問題・レポート課題の作り方 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	78	78	71	5	2	0	16	100.0
1月23日(木)・24日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第5回)	愛媛大学	7	0	7	0	7	0	6	0	#DIV/0!
2月3日(月)	グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学			0						#DIV/0!
2月3日(月)	新任教員のためのリフレクションセミナー	高知大学			0						#DIV/0!
2月13日(木)	障害学生に対するキャリア支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学			0						#DIV/0!
2月20日(木)	障害学生に対するキャリア支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学			0						#DIV/0!
2月14日(金)	留学生とのコミュニケーション	愛媛大学			0						#DIV/0!

令和6年度SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧(開催日順)

開催日	プログラム名	開催校	対象	講師所属校	講師	開催形式	受講者数		参加校数	満足度
							対面	遠隔		
2024年5月30日(木)	事例から考えるハラスメント	高知健康科学大学	学内限定	愛媛大学	高木 佳代子	対面	25	0	1	100.0
2024年6月3日(月)	教職員のための「アンガーマネジメントの基礎」	高知工業高等専門学校	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	52	0	1	95.5
2024年6月20日(木)	基礎から学ぶ学習評価法	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	学内限定	愛媛大学	中井 俊樹	対面	40	0	1	97.5
2024年6月21日(金)	試験問題・レポート課題の作り方	岡山理科大学獣医学部	学内限定	徳島大学	飯尾 健	対面	24	0	1	80.0
2024年6月26日(水)	教職員のための「アンガーマネジメントの基礎」	せとうち観光専門職短期大学	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	16	0	1	84.6
2024年6月28日(金)	組織の力を引き出す観察力養成講座	徳島大学	学内限定	愛媛大学	仲道 雅輝	対面	36	0	1	100.0
2024年6月28日(金)	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	高知工科大学・高知県立大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面・遠隔	100	0	2	91.6
2024年7月25日(木)	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	今治明德短期大学	学内限定	香川大学	西本 佳代	対面	22	0	1	85.7
2024年7月29日(月)	チームビルディング	愛媛県立医療技術大学	学内限定	愛媛大学	村田 晋也	対面	43	0	1	97.3
2024年8月21日(水)	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	香川県立保健医療大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	33	0	1	93.8
2024年9月3日(火)	成績不振・不登校学生対応事例による学生支援体制の構築	高松大学・高松短期大学	学内限定	高知大学	杉田 郁代	遠隔	0	46	1	77.4
2024年9月3日(火)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	松山大学・松山短期大学	学内限定	愛媛大学	阿部 光伸	対面	57	0	1	100.0
2024年9月5日(木)	これからの教職協働	人間環境大学松山看護学部及び総合心理学部	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	47	0	1	97.1
2024年9月10日(火)	これからの教職協働	香川短期大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	37	0	1	100.0
2024年9月10日(火)	現代学生の理解と関わり方	四国大学・四国大学短期大学部	県内のSPOD加盟校開放	香川大学	小坂 有資	対面	0	159	1	93.6
2024年9月11日(水)	やってみよう！テキストマイニング－基礎編	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	学内限定	徳島大学	塩川 奈々美	対面	22	0	1	100.0
2024年9月17日(火)	教学IR入門	弓削商船高等専門学校	未定もしくは上記以外	愛媛大学	真鍋 亮	対面	32	0	1	78.6
2024年9月18日(水)	その言葉・対応は、危険です！－保護者からの要望への対応	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	未定もしくは上記以外	阿南工業高等専門学校	安田 武司	対面	65	0	1	93.0
2024年9月19日(木)	これからの教職協働	鳴門教育大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	32	0	1	100.0
2024年9月20日(金)	教職員のための「アンガーマネジメントの基礎」	香川大学	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	14	0	1	100.0
2024年9月20日(金)	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	徳島工業短期大学	SPOD加盟校開放	香川大学	蝶 慎一	対面	13	0	2	100.0
2024年9月20日(金)	チームビルディング	香川高等専門学校	SPOD加盟校開放	愛媛大学	村田 晋也	対面	17	0	2	100.0
2024年9月26日(木)	数からみたカリキュラム－授業科目数の適正化に向けて	高知大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	12	0	1	100.0
2024年9月27日(金)	組織の円滑な運営のためのストレスマネジメント－自己理解と他者理解	阿南工業高等専門学校	学内限定	香川大学	野口 里美	対面	18	0	1	94.4
2024年11月22日(金)	現代学生の理解と関わり方	新居浜工業高等専門学校	学内限定	香川大学	小坂 有資	対面	67	0	1	88.3
2024年11月29日(金)	職員のための企画力養成講座	愛媛大学	学内限定	愛媛大学	丸山 智子	対面	17	0	1	86.7
2025年2月18日(火)	現代学生の理解と関わり方	高知リハビリテーション専門職大学・高知学園大学・高知学園短期大学	未定もしくは上記以外	香川大学	小坂 有資	対面				#DIV/0!

「第20回大学教育カンファレンス in 徳島」の実施報告について

高等教育研究センター教育改革推進部門

1. 目的

過去の全学FD推進プログラム「大学教育カンファレンス in 徳島」の参加人数とアンケート結果を振り返り、今後のプログラム改善に繋げる。

2. 平成27年度以降の参加者数及び発表件数について

今年度は昨年度と同様に徳島大学常三島キャンパスの対面会場での開催をメインとし、一部のプログラムをオンラインで配信するハイブリッド形式で実施した。参加者数について、昨年度と比較して学外の参加者が増加している。すべてのプログラムを対面会場で実施し、特別講演、口頭発表、一部のワークショップがオンライン配信となったことで、対面会場の参加者数が110名であり、またオンラインによる参加者も全国から幅広くあり、学内外からアクセスしやすいカンファレンスになったと考える。発表件数については、今年度は過去数年を上回っており、36件となった。この要因として、カンファレンスの翌日にSPODネットワークコア会議運営協議会を実施したことで、SPODコア校の関係者が参加しやすく、研究発表への動機づけにもつながったと考える。近年、学外の教職員による研究発表やワークショップの企画も増加しており、SPOD共通事業として広く広報していくことや、引き続きハイブリッド形式で実施することで、学内外の教職員の参加を働きかけていく必要がある。

回	年度	日時	実施方法	参加者数		
				学内	学外	合計
第11回	平成27年度	1月6日(水)	対面	163	17	180
第12回	平成28年度	12月27日(火)	対面	96	10	106
第13回	平成29年度	1月5日(金)	対面	136	18	154
第14回	平成30年度	12月26日(水)	対面	114	33	147
第15回	令和元年度	12月26日(木)	対面	110	14	124
第16回	令和2年度	1月8日(金)	オンライン	108	59	167
第17回	令和3年度	1月7日(金)	オンライン	158	57	215
第18回	令和4年度	12月27日(火)	オンライン(一部対面)	126	31	157
第19回	令和5年度	12月26日(火)	対面(一部オンライン)	101	41	142
第20回	令和6年度	12月26日(木)	対面(一部オンライン)	100	61	161

	H27	H28	H29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
口頭発表	19	14	14	14	15	15	16	18	16	16
ポスター発表	13	8	16	18	14	14	12	8	10	15
ワークショップ	2	1	3	2	2	2	2	1	2	5
ラウンドテーブル	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
APシンポジウム	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	38	23	33	34	31	31	30	27	28	36

3. 過去3年間のアンケート回答者数と回収率について

回	年度	回答者数	回収率
第18回	令和4年度	69名	44%
第19回	令和5年度	52名	37%
第20回	令和6年度	67名	42%

4. 過去3年間のアンケート集計結果及び令和6年度の考察について

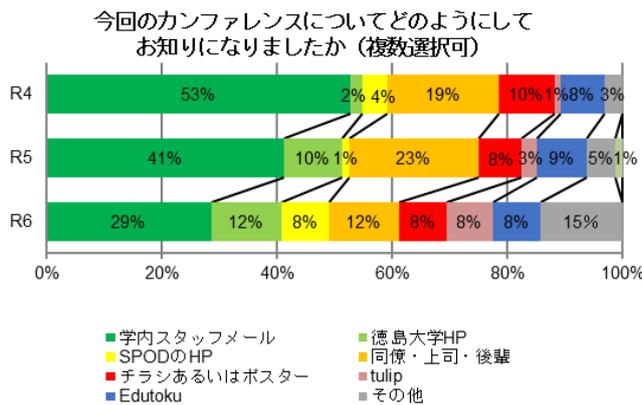
(1) 参加者自身について

参加者の所属などの内訳	令和4年度 (人数)	令和5年度 (人数)	令和6年度 (人数)
徳島大学	59	39	43
その他	7	11	24
未回答	3	2	0
合計(所属)	69	52	67
教員	51	35	38
職員	10	10	14
学生・大学院生	5	5	13
その他	2	2	2
未回答	1	0	0
合計(職種)	69	52	67
学内スタッフメールを見て	49	33	28
徳島大学ホームページの案内を見て	2	8	12
SPODホームページの案内を見て	4	1	8
同僚・上司・後輩等から聞いて	18	18	12
チラシあるいはポスターを見て	9	6	8
asagao (または turip) メーリングリストを見て	1	2	8
Edutoku メーリングリスト※を見て	7	7	8
その他	3	4	13
未回答	0	1	0
合計(知った手段) ※複数回答あり	93	80	97

※Edutoku メーリングリストとは、徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門が運営するメーリングリストで、毎週金曜日、「授業について考えるランチセミナー」のアーカイブ動画、配布資料のほか、授業実践や高等教育に関する書籍やwebサイトの情報、授業で使えるツールやTipsのお知らせなど、高等教育に関わるお"toku"な情報を配信している。SPOD加盟校の教職員、大学院生・学生を対象にしており、令和7年2月5日現在240名が登録している。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/fd/docs/26689.html>

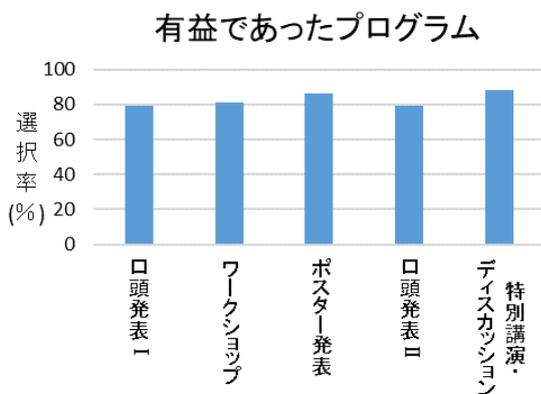
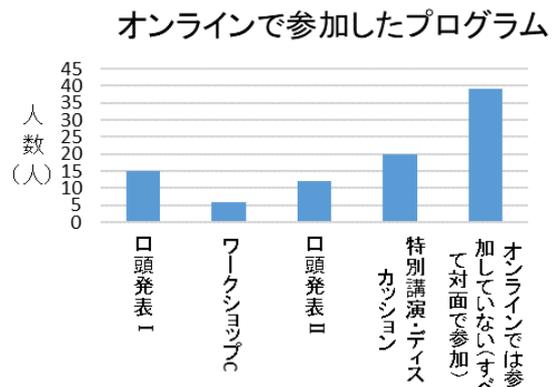
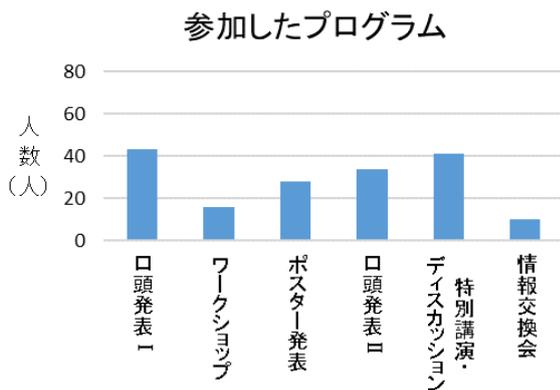
(2) 今回のカンファレンスについてどのようにお知りになりましたか



カンファレンスについて知ったきっかけとして、「学内スタッフメール」や「同僚・上司・後輩」は減少傾向にあるが、「徳島大学HP」「SPODのHP」「tulip」は増加傾向にある。今後は参加者が情報を得る手段も多様化していくことも考えられることから、さまざまな広報手段を活用して使って積極的な広報を行っていく必要がある。

(3) 参加したプログラムについて

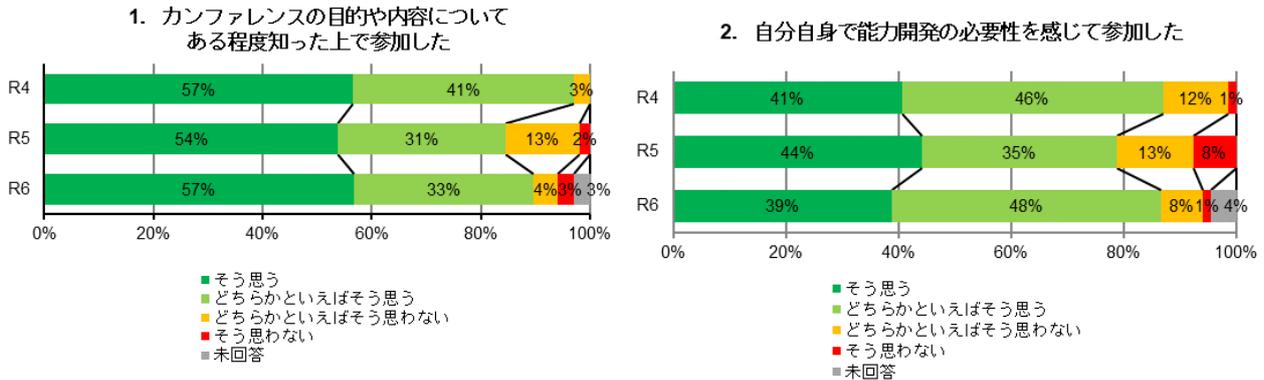
参加したプログラムをすべて選択してください。また、参加したプログラムのうち、ご自身にとって有益であったプログラムをすべて選択してください。



今年度は対面会場と一部オンラインで配信するハイブリッド型で実施した。対面会場の参加者は110名、オンライン参加者は66名、うち両方での参加は15名であった。アンケート回答者のうち、すべて対面で参加した人は39名と過半数を超えており、プログラムの有益度はすべてのプログラムで選択率が約80%である。このことから、いずれの方法で参加した場合でも、参加者にとって有益な内容を提供できていたと推察できる。

(4) カンファレンスの参加経緯について

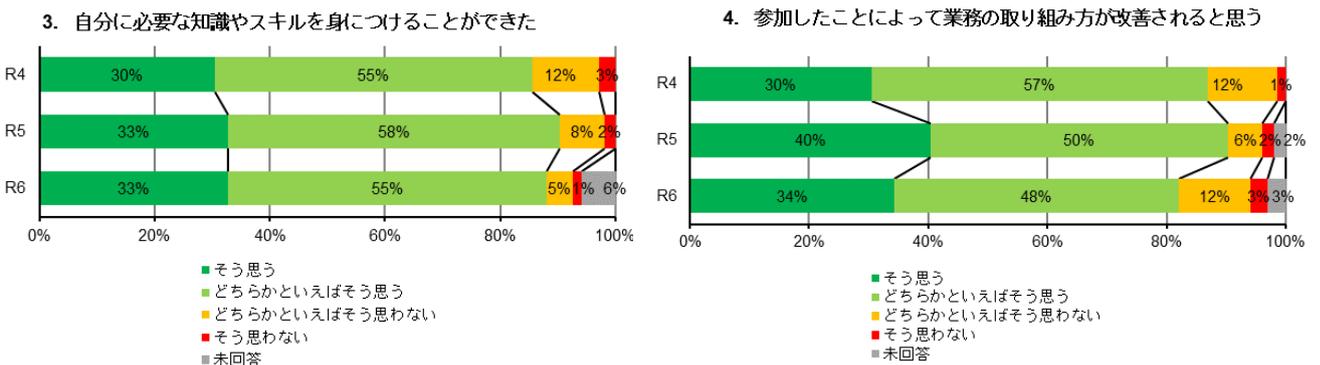
「1. カンファレンスの目的や内容についてある程度知った上で参加した」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者は90%であった。カンファレンスは今年度で20回目を迎えることから、カンファレンスに参加する関係者にとっては、目的や意義が浸透していると考えられる。また、「2. 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者は昨年度より増加しており、今年度は80%を上回っている。



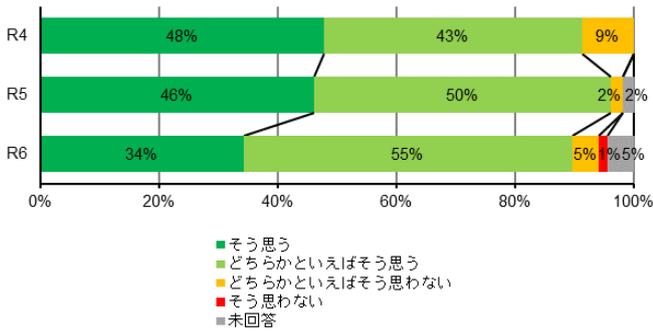
(5) カンファレンスの成果について

「3. 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた」、「4. 参加したことによって業務の取り組み方が改善されると思う」、「5. 研究発表や各プログラムの内容を十分に理解できた」という項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が80%以上であり、過去3年間に引き続き肯定的な回答を得ている。これは研究発表の内容や特別講演のテーマ設定が参加者のニーズや興味に合致していること、研究発表者の発表が工夫されていたこと、特別講演のテーマや講師が魅力的であることが要因の一つにあると考える。魅力的な研究発表の投稿につながるためにも引き続きカンファレンスのプレゼンスを高める努力をしていくことが必要である。

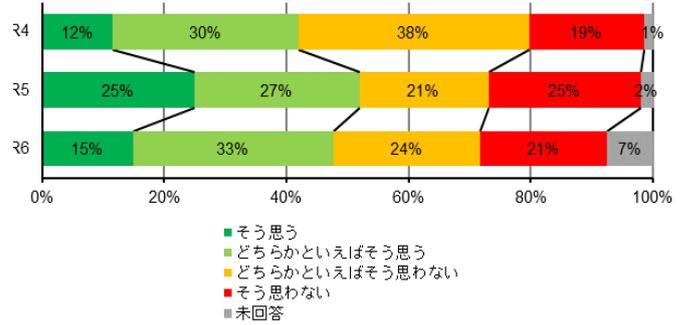
「6. 他の参加者との交流を深めることができた」では、オンラインをメインとして実施した令和4年度と同様の結果となった。この要因として、この設問について、対面のみで参加した回答者だけで見ると約75%が肯定的な回答をしており、オンラインで参加した回答者は約84%が否定的な回答をしていた。このことから、対面で参加した参加者同士では、他の参加者との意見交換などを通して交流を深めることができているが、オンラインでは参加者同士の交流を行うことが困難であることが分かる。



5. 研究発表や各プログラムの内容を十分に理解できた



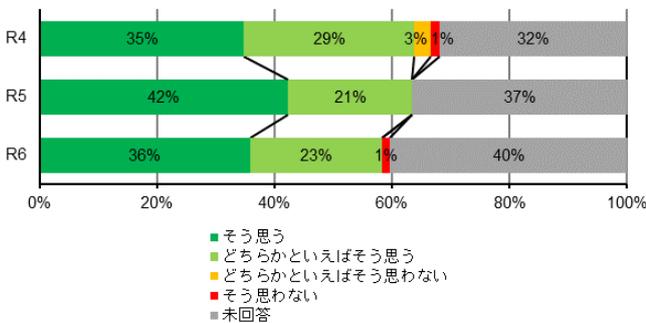
6. 他の参加者との交流を深めることができた



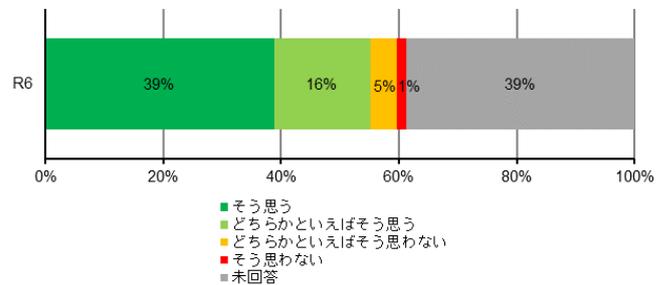
(6) カンファレンスの会場・スタッフ等について

「9. カンファレンスの会場（教室またはZoom）は快適な環境だった」という項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が80%、「10. カンファレンスの実施時期は適切だった」という項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が76%、「11. スタッフは手際よくカンファレンスを運営していた」、「12. スタッフの対応は丁寧だった」は肯定的な回答が80%を超えている。このことから、これまでと同様に、カンファレンスの会場や実施時期、設備等について適切な運営がなされたといえる。

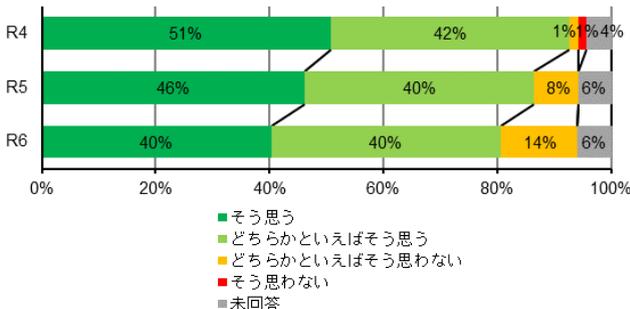
7. 特別講演の内容は興味深かった



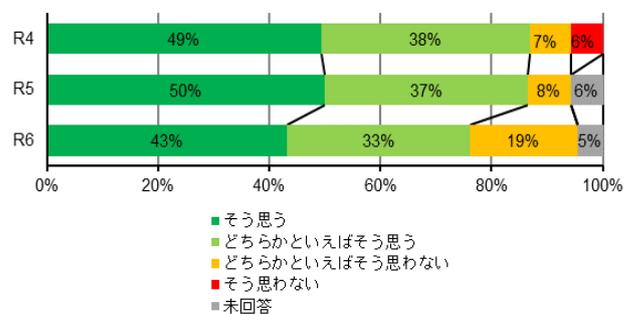
8. 「大学における教養教育をどう考えるか」についての理解が深まった



9. カンファレンスの会場(教室またはZoom)は快適な環境だった

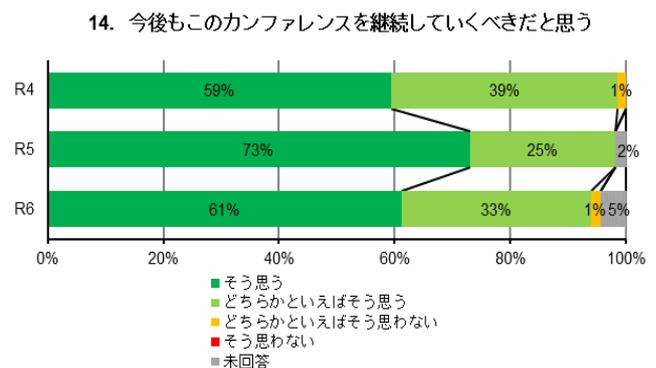
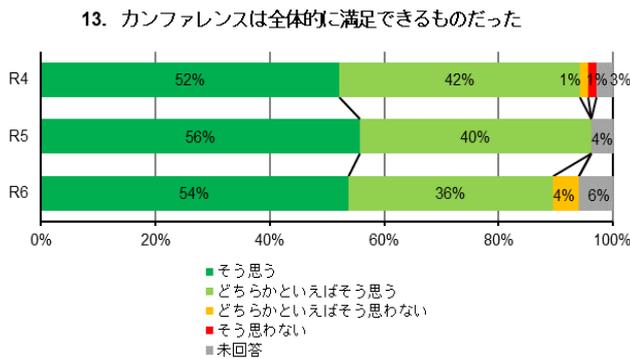
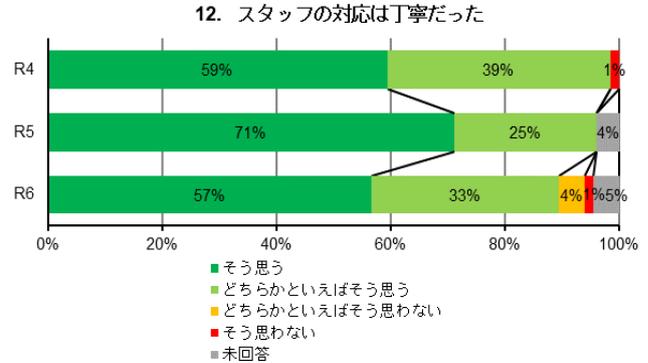
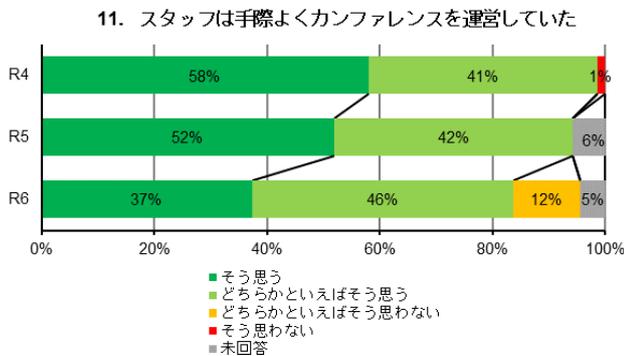


10. カンファレンスの実施時期は適切だった



(7) カンファレンス全体について

「13. カンファレンスは全体的に満足できるものだった」、「14. 今後もこのカンファレンスを継続していくべきだと思う」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が90%を超えており、多くの参加者にとって満足できるカンファレンスであったものと推察できる。



(8) 令和6年度「第20回大学教育カンファレンス in 徳島」自由記述について

参加して良かったと思われる点として、参加者同士との意見交換やワークショップを通して、日頃の教育活動について振り返る機会となったことや、今後の取組を考える機会になったことが窺える。また、学生の発表についても「同じ学生の頑張りや苦悩を知ることができ、私自身の大学生活を見直すきっかけになった」という学生の立場からの意見や、「学生さんの発表に参加しましたが、日々の努力について知ることができ、十分理解できました。今後の活躍に期待しています。」のように学生の取り組みを評価する意見も挙げられた。「アットホームな雰囲気、リラックスして参加できました。」との意見からも分かるように、教員、職員、学生による多様な発表者による多様な発表が行われ、参加者同士も立場を超えて自由に意見交換ができる大学教育のイベントであったことが分かる。

特別講演については、「東工大の教養教育には興味を持っていて、カリキュラム作成の経緯や具体的なことについて中の人のお話を聞いたことは非常に有益だった」、「東京科学大学の取組については非常に興味深く感じられた。理系中心の徳島大学として何を学ぶかを考えるべきと思われる」との意見があり、今後の教養教育について参考となる示唆が与えられたことや、各大学において今後の取組を考える機会となったことが分かる。また、「東京科学大学と、本学を含む四国の大学とでは環境等

が違いすぎ、実際の本学の教育や授業運営の改善にすぐに役に立つかと言えば、少々疑問です」との意見も 1 つあり、特に今回の講演を踏まえて各大学が現実を踏まえつつどのような教養教育に取り組んでいくべきかを考えていくことが難しく、かつ重要なことであるといえる。東京科学大学でも簡単に現状の取組や仕組みを整えたわけではないことが講演でも報告されていたが、この答えは当事者同士で議論して見出していくべきことだということもインプリケーションとして読み取れる。

また、改善点については、オンライン配信におけるトラブルや機器の性能による意見が挙げられている。この点は、今回の反省を活かして事前の確認や予備の体制などをあらかじめ整えておく必要があると感じる。その他には、発表の質の問題、カンファレンスの開催時期、ディスカッションや発表の進行に関する意見が挙げられた。発表の質について、上述のように多様な参加者、発表があるという面もよい点として挙げられており、現状の発表者数がキャパを超えているわけではないことから、まだ発表を厳選する段階ではないと考える。実施時期についても、SPOD フォーラムとの兼ね合いや授業が学会シーズンとの兼ね合いも踏まえて時期を検討していく必要がある。最後に進行については、各座長、司会が各所で時間を意識した運営ができるようにする必要があり、今回挙げられた意見を次年度以降の企画において活かしていきたい。

カンファレンスに参加して良かった点・有益であった点などがあればお書きください。
自分たちの組織の現状について振り返るいい機会になった。
同じ学生の頑張りや苦悩を知ることができ、私自身の大学生活を見直すきっかけになった。 ポスターセッションにてキャリア教育関連でとても学びになるディスカッションができた。
他大学と比較して自大学の取組みについて考えることができた点
教養教育のご講演が非常に良い刺激になりました。ありがとうございました。
日頃の業務を見直すきっかけになりました。
「日本版 CTL アセスメント基準 2.0」の存在を初めて知ることができたこと、それをういて長崎大学の 教学マネジメントを対象にアセスメントを自ら試行できたことが良かった点である。加えて、特別講演 からは、東京工業大学が戦後の昭和 21 年以降、教養教育に関して「くさび型教育」を実施してきたこ とを初めて知り、近年の「立志プロジェクト」や「教養卒論」、博士前期課程および博士後期課程の高 度教養科目の履修など、昭和 21 年からの基本的なポリシーを貫いて教養教育で展開されておられるこ とを確認させて頂いたことが極め有益であった。
学生の発表を含めて、さまざまな教育実践の知見を得られた点。
特別公演の内容は、とても興味深かったです。
今年はオンラインで参加（昨年は現地にて参加）させて頂きましたが、Zoom での運営もスムーズ で、口頭発表やワークショップ等で本学の質保証獲得に向けた多くの有益な情報を得ることができまし た。感謝申し上げます。来年もどうぞよろしくお願い致します。
参加者の方より適切なコメント、改善策、評価を頂きました。
午後の口頭発表にも参加させて頂きたかったのですが、不具合から入室できず残念でした。 次回は対面で参加させて頂こうと考えています。ありがとうございました。

特別講演を聴講いたしました。本学でも様々な課題を抱えており、今回お聞かせいただいた東京科学大学の取り組みを参考にさせていただきます。ありがとうございました。

高等教育研修センター（Center for Teaching and Learning）についての内容を扱っているWSは少ないので、参加できてとても学びになった。より良い高等教育とはどのようなものをよく考えるきっかけにもなりました。ありがとうございました。特別講演も教養教育について最先端の取組（その背景や今も試行錯誤しているところなど含め）を十分にシェアしていただき、ありがたかったです。生成AIが教育にも大きな影響を与えているなか、身体性を伴う教室で教室でしかできないことを提供することが大学（高等教育あるいはすべての教育で）で必要で、教員にもそのような講義を具現化する力が求められていることを再確認しました。高等教育研修センターはそのような授業提供を目指して頑張る教員も多様な学生を支援している職員も、これから教員になる大学院生もお支えできる場でありたいと思いました。開催頂き、ありがとうございました。

特別講演は東京科学大学の先生でした。ご講演の内容は非常に勉強になりました。但し、東京科学大学と、本学を含む四国の大学とでは環境等が違いすぎ、実際の本学の教育や授業運営の改善にすぐに役に立つかと言え、少々疑問です。もちろん、最先端の大学の状況を知る、という点では非常に意義深いものだったと思いますが、今後、特別講演の際には地方の大学の方も呼びいただければより参考になると思います。ご検討ください。

特別講演のテーマに強い関心を持っていたので、教養教育に関する知見を拓ける上で、有益であったこと。

以前から東工大の教養教育には興味を持っていて、カリキュラム作成の経緯や具体的なことについて中の人の話を聞いたことは非常に有益だった。

今回、学生さんの発表に参加しましたが、日々の努力について知ることができ、十分理解できました。今後の活躍に期待しています。

早期体験実習での基礎臨床統合型実習の詳細について理解が深まった。

様々な人と関わってコミュニケーションの向上につながった

同じ i.school の参加者の発表を聞き、学びを実践にうつす必要性を感じ刺激となった。

特別講演で紹介された東京科学大学の取組については非常に興味深く感じられた。理系中心の徳島大学として何を学ぶかを考えるべきと思われる。

いろいろな情報が得られた点。

アットホームな雰囲気、リラックスして参加できました。岡田先生のお話、大学の理想の姿を見た気がしました。「理想って実現できるのだ」と勇気をもらえた気がします。

カンファレンスをよりよいものとするために改善すべき点、または今後のカンファレンスで取り上げてほしい特別講演やワークショップのテーマ、あるいは新しい企画があれば具体的にお書きください。

発表者ツールが使えないといったトラブルがあったので、事前に確認などしておいてほしい。

<p>オンライン配信の枠が増えると良いと思います。お世話になりました、ありがとうございました。感謝いたします。</p>
<p>年末以外の開催もご検討いただければと思います。(とはいえ、SPOD フォーラムとの関係を考えると難しそうですが……)</p>
<p>教学マネジメントシステムを展開する中で、「C (チェック)」における『自己評価ループリック』への学生の入力や『コンピテンシーテスト』の有益性などについて、テーマとして取り上げて頂きたい。</p>
<p>口頭発表のスケジュールがタイト。終わったあとに教室を移動したらずでに発表が始まっていることが複数あった。移動時間をもう少し考慮してほしい。</p>
<p>引き続き、リベラルアーツに関する取り組みを取り上げてもらいたいと思います。</p>
<p>高等教育研修センターの頑張りを学内に上手にさりげなく周知する良い方法があれば知りたいです。あるいは、ハブ機関として機能することも重要といわれていますが、何でも屋になりがちだと思います。(例、IR やって、他部署の研修の共催の支援やって、学生の学習支援センターとの連携して、新任教員研修やって、頑張っているのを知る人ぞ知るみたいになっているのが不思議です。) FDSD ってアピールしなくても、自然に能力開発できるし、実用的で楽しい研修もありますし、自学内や他の教育機関の教職員ともネットワークも作れますよって広報のうまくいっているところも知りたいです。(すみません、開催時期が厳しいです。年末の参加はオンライン参加でも仕事の調整がとても大変でした。)</p>
<p>①要旨集は、事前に公開されているが、当日配布資料についてもデータ配布していただくとありがたい(ペーパーレスになっている研究会等も増えつつあるので)。 ②オンライン配信でいろいろご苦労される光景を拝見したが、オンライン配信が円滑に進むような改善がなされると、よりよいと感じた。</p>
<p>教養教育関係に興味がある。専門教育と異なり、目標設定がどうしても曖昧になる分野であると思うから。あと、最近流行りのリカレント教育にも興味がある。</p>
<p>Zoom 配信時のトラブル対策を検討する必要あり</p>
<p>ポスター会場が寒かったです。</p>
<p>ポスター発表の内容のレベルが少し低いように感じた。もう少し範囲を狭めるか内容の精査があればよいと感じた。</p>
<p>年末の開催時期が定着しているが、別の時期(例えば9月頃)を検討する余地はないでしょうか。</p>
<p>講演の質問を整理して時間内に進むようにしてください。(いささかさまつな質問もあり、もっと深めてほしい議論が流れていた印象でした。)</p>

令和5年度SPOD事業評価委員会委員の評価への対応について(案)

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(以下「SPOD」という。)では、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条及び事業評価委員会要項に基づき、SPODの実施する事業に対して評価を行い、その改善に資することを目的として、事業評価委員会を設置している。

令和5年度は、「SPODフォーラム2023」の視察やSPOD活動報告書をもとに、委員3名から各々の立場で意見・評価をいただいた。SPODネットワークコア運営協議会では、事業評価委員会委員のご意見に基づきSPOD事業改善に向けて議論し、以下のとおり対応と今後の方向性の検討を行った。

1) 共通事項

指摘事項【SPODフォーラムについて】

- プログラムによっては事前課題が設定されていますが、その課題が手元に届いてから課題提出までの期間が短く、十分準備ができないものもありました。この点は、配慮する余地があるのではないかと考えられます。
- 以前に分類されていたFD・SD種別の明記がなく、講義・ワーク・シンポジウム・ポスターセッションの4分類とシラバス等での主たる対象者の指定がなされている。参加者が、自身の職務や関心に基づいて選択できる自由度と柔軟性が確保されているものの、並行セッションのために参加したいプログラムの時間帯が重複して選ぶことができないこともありうる。教室の収容人数、グループサイズ・数などの制約条件に基づいて、プログラム選択の幅が有効に機能したかどうかは、参加者アンケート等により検証してもよいかもしれない。
- 対象者の選択を有効に機能させるためには講義・ワークの種別を問わず、プログラム紹介のショートビデオ(2～3分でよい)を用意したりする方策もありえる。
- ポスターセッション会場が、やや狭小なこと、懇親会の実施がなかったこともあって、対面実施のよさである交流が十分に促されかについては、一考の余地が残されていると思われる。対面開催とはいえ、対面とオンラインを組み合わせ、Social Networkのような参加者交流の時間や機会の創出の工夫ができるかもしれない。
- 対面の参加体験の価値を最大化するためにも、インストラクショナル・デザインや研修設計の観点から、SPODフォーラムの各プログラムの設計そのものが、範を示せるものとなることが望ましい。事前課題等の提示の時期、内容、提出メ切、さらには事後のフィードバックのタイミングなど、学習者が見通しをもって受講できるように担当する講師へのインストラクションも工夫いただきたい。
- 講義については、あえて対面で行うべき内容か、単なるリサーチの報告にとどまっていないか、プログラム編成とシラバスの作成の段階でも、検討しておいたほうがよい。

対応

1点目のSPODフォーラムの事前課題については、今回の指摘やSPODフォーラム2023のアンケート要望を参考に、今年度は8月上旬に受講予定者に送付し、十分に取り組む期間を設けることとした。

2点目のプログラム選択については、SPODフォーラム2025において、FD・SD・学習支援・講義型プログラムを特定の教室に固めることで、受講者の関心や属性に合ったプログラム選択を行いやすくなるよう工夫する予定である。プログラムの配置については、今後の受講者アンケートなどを通じて引き続き改善を進めていく。

3点目の紹介ビデオについて、今年度は個々のプログラムの作成については実現できなかった。しかし、SPOD

フォーラム2023のダイジェスト動画をYouTubeチャンネルのトップに固定する、SNS上にリンクを積極的に掲載するなど動画を活用した周知に取り組んだ。

4点目の交流機会の創出については、新型コロナウイルスの流行に伴い中止していた情報交換会を今年度は実施する方向で準備を進めていた。SPODフォーラム2025においても情報交換会を開催する予定であり、受講者間のネットワーク構築が図られるような企画の実現に引き続き努めていく。

5点目、6点目の講師へのインストラクション、講義内容の調整については、これまで講師に任せている部分が多い状況であった。そのため、SPODフォーラム2025の講師依頼の際は、SPODコア校内で指摘事項を共有し、研修方法、事前課題などの研修設計について、各講師に工夫してもらうよう依頼を行った。また、SDについては、SPOD-SDCが講師のインストラクションに関与できるような仕組みをつくることも検討していく。

指摘事項【海外事例の調査・比較について】

●コミュニティ・カレッジの共同FD・SD提供団体であるNational Institute for Staff and Organizational Development (NISOD)、ニューイングランド地区のNew England Faculty Development Consortium (NEFDC)など、機関誌の発行や年次カンファレンスの規模感など、いまのSPODフォーラムと趣旨や課題が共通しているものについては、改めて参考にしてもよいかもしれない。国内で比較できる規模の大学教職員の教育・学習コミュニティは少なく、今後の発展のために、ベンチマークをとっておくことが、長い目でみた運営の大局に有効と考える。

対応

ご提案のNISOD、NEFDCについてウェブサイトを通じて調査を行った。加盟校数の規模などはSPODより大きなものであるが、ミッションに共通性もみられ、いくらかの示唆を得ることができた。

たとえば、ウェブサイトや刊行物の充実による知見の共有や普及は、現状研修やフォーラム等のイベントに活動の中心がおかれがちであるSPODの今後の活動の展開に不可欠な視点である。また、NISODはさまざまな形でのスポンサーを募っているが、大学以外に支援を求める点はSPODの今後の持続可能性を高めるうえで、検討すべきこととなるだろう。

これらの両団体を含めた諸外国のFD・SD提供団体について引き続き調査を行うこととする。

指摘事項【研修の実施内容について】

●対面研修の参加者が少ないものが多く見受けられる反面、オンライン型の研修への参加者が多いのが印象的であった。対面でしか実施していない形式、良さも十分あると思われるので、オンラインでの気軽な参加に人員を奪われないよう、さらに実施内容を工夫し、対面研修での参加者を増やす工夫を行って欲しい。

対応

SPODが提供するプログラムについては、多くが対面で実施される状況に戻ってきている。

FDについては、オンラインを活用したプログラムの開発、実施も並行して行っており、研修の目的や内容に応じて、方法を使い分けながら実施しているところである。また、新任教員研修では対象者が参加しやすくなるよう、事前にオンライン学習を取り入れており、対面時のワークショップの充実と日程の効率化を図る工夫を行っている。

SDについては、大学人・社会人としての基礎力養成プログラムにおいて、各大学の職員のつながりを構築することも研修全体の目標としていることから、対面で実施し、多くの参加者を集めている（会場や講師の都合上、これ以上の定員増は難しい）。現在、SD専門部会の検討ワーキンググループなどで、新たなプログラムの検討、既

存のプログラムの見直しを行っており、今回ご指摘いただいた内容を踏まえて、内容的に対面が適しているもの、オンラインやオンデマンドが適しているものなどを精査し、実施内容や実施方法の工夫を進めていく。

指摘事項【事業予算について】

●事業経費が総額 7,700,000 円と各大学の負担額 6,200,000 円となっており、その差額はどこから補っているのか、また、多くの事業を展開、プログラムを実施している割には、予算が少なく、運営が継続できる様、協賛金の獲得、負担金の増額を検討していくことが肝要ではないか。その上でも、他のコンソーシアムとの連携、協議も今後活発にしていくことも合わせて検討して欲しい。

対応

事業経費の総額と加盟校の負担額との差額については、SPODフォーラム参加料を中心とした研修料収入により補っている状況である。また、SPOD将来構想における「持続可能なSPODの組織体制を構築する」を実現するためにも、ご指摘のように事業予算の運用を見直していく必要があると考えている。このことから、令和6年度SP OD総会では、予算の年度繰り越しについて審議し、柔軟な予算運用の実現を図ることとしている。さらに、SPODフォーラム2024で申請予定であったコンベンション協会補助金など外部資金の活用、他地域のコンソーシアムとの交流を通じた研修受講者の確保、**企業等からの協賛金を得られる企画の検討なども進めていく。**

2) FD

指摘事項【FDのリソース活用について】

●FD 担当者の数が多くないなかでは、コア校の負担が心配される。SPOD 事業のなかで、コア校の教育開発専門職のリソース、FD リソースの共有化を継続することには、費用面やポストの確保も含めて、引き続き十分な理解を得ながら持続的な取り組みを行っていただきたい。

対応

SPOD加盟校内で公開されているFDコンテンツ(動画、資料等)を効果的に加盟校教職員に届けることができるように、「SPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト(β版)」を調査研究プロジェクトとして共同開発した。また、複数の大学の担当者が共同で実施するFDプログラム「授業について考えるランチセミナー」を開発することで、重複する部分を調整するとともに、各大学のFD担当者が持つそれぞれの専門性を活かしたコンテンツを共同利用することができた。

3) SD

指摘事項【次世代リーダー養成ゼミナールのSD担当部署との連携について】

●リーダー養成は、機関を越境して行われる場合に、所属機関に持ち帰って定着を図ることに、しばしば文化的衝突などの困難を起こすこともある。各機関のSD部署との連携が期待される。

対応

機関毎に、次世代リーダー養成ゼミナールの受講者へ期待することなどの差異があり、所属機関に持ち帰って定着を図ることが難しいことは承知しているところである。それを多少でも改善していくために、また、受講者のフォ

ローアップ的な位置付けとして、本セミナーの講師及びSPOD事務局が次世代リーダー養成セミナー修了生
のいる大学のSD担当部署や修了生と意見交換のできる場(オンラインを含む。)をつくることを検討する。

指摘事項【次世代を切り拓く大学職員の育成に関する検討WGの成果報告について】

●「次世代を切り開く大学職員の育成に関する検討ワーキンググループ」等の成果報告がどのようになっている
か詳しく報告いただきたい。

対 応

本ワーキンググループは、令和5年度から2年間の活動となっている。令和5年度については、中間報告書を作
成したので追加で送付を行いたい。なお、令和6年度終了時点において、2年間を通じた報告書を作成する予定
である。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員等の改選について（案）

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約（以下「規約」という。）第5条、第7条、第8条及び第12条に基づき、役員等の任期満了に伴う以下1～5の改選を行う。

（次期任期：令和7年4月1日から令和9年3月31日）

なお、コア校は、規約別表第2のとおり、徳島大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学を指す。

1. 代表校／事務局（規約第7条及び第12条関係）
愛媛大学
2. 会長（規約第8条第1項、第2項、第5項及び第6項関係）
愛媛大学長
3. 副会長（規約第8条第1項、第3項、第5項及び第7項関係）
徳島大学長、香川大学長及び高知大学長
4. 監事（規約第8条第1項、第4項、第5項及び第8項関係）
四国大学・四国大学短期大学部学長及び弓削商船高等専門学校長
5. 企画・実施統括者（規約第8条第1項、第2項、第5項及び第6項関係）
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室教員

【参考】四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約（抄）

（コア校）

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

（代表校）

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

2 代表校は、コア校の互選により選出する。

3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

（会長、副会長、監事及び企画・実施統括者）

第8条 SPODに、会長（1名）、副会長（3名）、監事（2名）及び企画・実施統括者（1名）を置く。

2 会長及び企画・実施統括者は、代表校から選出する。

3 副会長は、代表校を除くコア校から選出する。

4 監事は、コア校を除く加盟校から選出する。

5 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

6 会長は、SPODを代表する。

7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

8 監事は、会計を監査する。

9 企画・実施統括者は、SPOD活動に係る企画及び実施を統括する。

10 補欠による会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、前任者の残任期間とする。（事務局）

第12条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

別表第2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿（案）

任 期 : 令和7年4月1日～令和9年3月31日

(令和7年4月1日現在)

会 長	仁 科 弘 重	愛媛大学長
副 会 長	河 村 保 彦	徳島大学長
副 会 長	上 田 夏 生	香川大学長
副 会 長	受 田 浩 之	高知大学長
監 事	松 重 和 美	四国大学・四国大学短期大学部 学長
監 事	内 田 誠	弓削商船高等専門学校長
企画・実施統括者	中 井 俊 樹	愛媛大学教育・学生支援機構 教授

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

事業評価委員会委員名簿（案）

任 期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

杉森 公一 北陸大学 高等教育推進センター長
 （継 続）

鈴木 洋 芝浦工業大学 情報イノベーション部長

山田 正和 大学コンソーシアム京都 事務局長
 （継 続）

（計3名 敬称略）

【参考】

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員（R5.4.1～R7.3.31）

※山田正和氏の任期は前任者からの引き継ぎのため、R6.4.1～R7.3.31となる。

杉森 公一 北陸大学 高等教育推進センター長
 高野 修 広島経済大学 総務部長
 山田 正和 大学コンソーシアム京都 事務局長

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会要項（抄）

（組織及び運営）

第3条 評価委員会は、大学等におけるFD／SD活動に造詣が深い者をもって組織する。ただし、委員はSPOD加盟校以外の機関に所属する者とする。

2 前項の委員は、ネットワークコア運営協議会（以下、「運営協議会」という。）の議を経て、会長が委嘱する。

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事業評価委員会委員

		H31.4.1～R3.3.31		R3.4.1～R5.3.31（現委員）		R5.4.1～R7.3.31（新委員）		R5.4.1～R7.3.31（新委員）			
1 ◇	佐藤 浩章	大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部 准教授	1 ◇	佐藤 浩章	大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部 准教授	1 ◇	杉森 公一	北陸大学 高等教育推進センター長 教授	1 ◇	杉森 公一	北陸大学 高等教育推進センター長 教授
	高野 修	広島経済大学 * 大学行政管理学会常務理事	2 ◇	高野 修	広島経済大学 * 大学行政管理学会常務理事	2 ◇	高野 修	広島経済大学 * 大学行政管理学会常務理事	2	鈴木 洋	芝浦工業大学 情報イノベーション部長 * 大学行政管理学会常務理事
	桂 良彦 伊勢戸 康	大学コンソーシアム京都 事務局長 ～R2.3.31/R2.4.1～	3 ◇	伊勢戸 康	大学コンソーシアム京都 事務局長	3 ◇	伊勢戸 康 山田 正和	大学コンソーシアム京都 事務局長 ～R6.3.31/R6.4.1～	3 ◇	山田 正和	大学コンソーシアム京都 事務局長

事業評価委員会要項【改正後（平成25年4月1日付け）】

第3条 評価委員会は、大学等におけるFD/S D活動に造詣が深い者をもって組織する。ただし、委員はSPOD加盟校以外の機関に所属する者とする。

- 2 前項の委員は、ネットワークコア運営協議会（以下、「運営協議会」という。）の議を経て、会長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会に議長を置き、委員の互選により選出する。議長に事故があるときは議長が予め指名する委員が、その職務を代行する。
- 5 委員会に関する事務は、代表校において処理する。

SPOD 事業予算の繰越について(案)

現状・課題

SPOD 事業の事業契約期間は4月から翌年3月までの1年度で、事業予算についても年度で管理し、残額が生じた場合は、各加盟校に返還することとなっている(共同事業契約書第9条第2項)。

事業経費については、SPOD フォーラムが終了し収入予算がおおよそ確定する秋頃に収支見込みを確認の上、ネットワークコア運営協議会において予算執行計画を見直し、全額執行してきた。見直し分の執行内容としては、SPOD 職員能力開発経費(RI)や必要物品の購入であり、限られた予算の範囲内で執行しているが、監事監査において、監事からは、効率的な予算管理と有効的な予算執行のため、予算の繰越について検討してみてもどうかとの意見が出てきているところである(令和3、4年度監事監査)。

対応案

研修料の収入増や予定事業の効果的な執行等によって執行残が発生する場合は、当該執行残をより有効的に使用できるよう翌事業年度に繰越ができるようにする。

予算繰越は、ネットワークコア運営協議会で審議した上で、総会に諮ることとする。【共同事業契約書第9条第3項を追加(別添 共同事業契約書(改正案))】

繰越に関する考え方

事業予算の作成に当たっては、~~前年度の~~繰越額を翌年度の収入予算に含めて予算計画を作成し、使用計画のない繰越額が累積しないよう留意する。

(今後の予定)共同事業契約書の改定

(ネットワークコア運営協議会までに)	コア校に事前確認
令和6年12月27日(金)	ネットワークコア運営協議会にて審議
(総会までに)	学長に事前説明 加盟校に事前確認
令和7年3月(書面)	総会にて審議

(加盟校からの意見)

○松山大学

説明によれば「見直し分の執行内容としては、SPOD 職員能力開発経費(RI)や必要物品の購入であり、限られた予算の範囲内で執行している」とあるが、本来、そのような事務的経費も含めて当初に予算化しておくべきではないか。収支見込を確認した上で更正するものについては、緊急的に対応しなければならないものに限られるべきである。地方私立大学を取り巻く環境は非常に厳しく、学内において経費節減を徹底している中、執行残が発生しないように調整するやり方には慎重でありたい。少額であったとしても第9条第2項の適切な運用をお願いしたい。

→繰越額を翌事業年度の収入予算に計上し、予算計画を策定し、より適切に執行を行います。

○岡山理科大学獣医学部

・繰越金の用途について、ご予定がありますでしょうか。

→翌事業年度の SPOD 事業に使用します。

・繰越期間の上限を設定してはいかがでしょうか(たとえば中長期的な目標の一環として、理系、医療系の FD・SD 開発をご検討いただけるとありがたいです。)

→翌事業年度の使用計画に含めますので、翌事業年度に使用します。

・年会費との整合性はいかがされますか。

→繰越額を考慮し、翌事業年度の各大学の負担金を減額調整します。

SPOD—SDC申請者一覽

	大学名	所属・職名	氏名
1	松山大学	学生部学生支援室 主任	杉原 康弘

四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおける スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ

平成26年11月19日
ネットワークコア運営協議会

(趣旨)

第1条 この申合せは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、自大学及びSPOD加盟校におけるSDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格の名称)

第2条 資格の名称は、「SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (Staff Development Coordinator)」(以下「SPOD—SDC」という。)とする。

(資格の認定)

第3条 SPOD—SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、SPOD加盟校人事課長又はSD担当課長相当が別紙様式1により推薦する自大学の教職員に対して、SPODが別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、SD専門部会において研修プログラム受講歴及び研修講師歴等を踏まえ審査し、SPODネットワークコア運営協議会が承認した者に授与する。

(資格の有効期間)

第4条 SPOD—SDC資格の有効期間は、認定日から、SPOD事業の運営終了日までとする。

(資格認定・授与原簿)

第5条 SPOD—SDC資格を認定して資格認定証書を授与したとき、及び第7条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3のSPOD—SDC認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

(資格認定証書の再交付)

第6条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を受けることができるものとする。

(資格の取消し)

第7条 SPOD—SDC資格を認定された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

(事務)

第8条 SPOD—SDC資格認定に関する事務は、SPOD事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この申合せに定めるもののほか、SPOD—SDCの認定に関し必要な事項は、SPODネットワークコア運営協議会が別に定める。

附 則

1 この申合せは、平成26年11月19日から施行する。

2 この申合せの施行の際、現に認定されている者については、第3条に規定する資格認定証書を授与する。

別紙

SPOD－スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

SPOD－スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. SPOD－SD（又は自大学におけるSD）講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

平成 年 月 日

SPOD－SDC認定推薦書

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク会長 殿

(所属・職名)

(氏名)

印

以下の者については、他者の模範となり得る人物であり、下記のSPOD－SDC資格認定基準を満たしますので、スタッフ・ポートフォリオ*1 を添え、SPOD－SDCに推薦いたします。

(大学名・職名)

(氏名)

記

1. SPOD－SD (又は自大学におけるSD) 講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

(裏面に活動実績)

*1 ただし、すでに教員職に就いており、スタッフ・ポートフォリオの作成が難しい場合は、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオに置き換えることができるものとする。

以下は、SPOD-SDC資格認定基準に関わる活動実績

1. SD講師実績 (日時/研修名/場所) ※SPOD外での講師経験も可

- 例)・平成24年4月10日 / 新任教職員研修「ビジネスマナー」/〇〇大学(自大学研修)
- ・平成25年5月15日/大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)【新任職員研修】「コミュニケーション入門」/〇〇大学(SPOD内研修)
- ・平成26年10月24日/SDコーディネーター養成講座 in 九州/〇〇会場(SPOD外研修)

2. 職員のキャリアプランニングサポート実績

- 例)・平成23年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)「メンター入門」(SDコーディネーター養成講座「メンタリング実践」等)を修了しているほか、定期的に職場内で部下とミーティングを行い、キャリアプランのサポートを行っている。

3. 大学等における職員人材育成ビジョンに関わった実績

- 例)・平成25年度教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)主催、追手門学院大学で開催された「SDC養成講座」フォローアップセミナーにおいて「人材育成ビジョン作成ワークショップ」を修了している。
- ・平成25年度SPOD主催愛媛大学で開催された「職員のための講師養成講座(総論・マイクロテック)」を修了している。
- ・人事担当として、学内の人材育成ビジョン作成に携わった経験がある。

4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案の実績

- 例)・平成25年度SPOD主催愛媛大学で開催された「国際連携職員養成プログラム開発ワークショップ」に参加。
- ・平成25年度、自大学新任職員研修を企画・立案し、講師を務めた。
- ・平成26年度SPOD主催愛媛大学で開催された「職員のための講師養成講座(総論・マイクロテック)」を修了している。

5. スタッフ・ポートフォリオに関する実績

※1～4で総合的に基準を満たすと判断した。

第 号

資 格 認 定 証 書

氏 名

生年月日

上記の者は四国地区大学教職員能力開発ネットワークの所定の
基準を満たしたのでSPOD－スタッフ・ディベロップ
メント・コーディネーターの資格を認定する

平成 年 月 日

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク 会長

愛媛大学長

SPOD－SDC認定・授与原簿

番号	年 月 日	所属 / 職名	氏 名	生年月日	備 考

(注) 資格の取消しを行ったときは、備考欄に取消年月日及び取消理由等を記載すること。